

## 〈 〈 健診結果通知票のみかた 〉 〉

検査結果には数値で示されるもの、プラス・マイナスで示されるもの、医師が説明（所見）するものなどがあります。検査結果に異常があれば注意事項が付記されてきます。検査結果を正しく読んで、健康管理を心がけることが大切です。気になる点がみられたら、医師に相談しましょう。

検査部門	検査項目	単位	検査でわかること
体格	BMI		体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で算出し、25以上で肥満です。
	腹囲	cm	臍で水平に計測します。基準値は男性85cm未満、女性90cm未満です。
血圧測定	最高・最低血圧	mmHg	高血圧が続くと血管壁が傷み、心筋梗塞や脳卒中を起こす原因となります。
眼底検査	眼底		血管の変化、動脈硬化、高血圧・糖尿病の発見や進展度合いの把握ができます。
尿検査	尿糖・尿蛋白		陽性の場合、糖尿病や腎炎など腎機能低下の可能性がります。
	尿潜血		尿中に血液が混じる状態で、腎炎や感染などの出血性病変で陽性になります。
	尿沈査		尿を遠心分離して成分を顕微鏡で観察し、細胞や細菌の混在を調べます。
便潜血検査	便潜血		消化管に潰瘍や腫瘍などで出血性病変がある場合に陽性となります。
肝機能検査	AST(GOT) ALT(GPT)	U/L	主に肝臓の細胞に含まれる酵素で、肝細胞の損傷や肝炎等の指標になります。
	γ-GTP	U/L	肝胆道系酵素の一種で薬物やアルコール、肝炎による肝臓の負担で上昇します。
	ALP	U/L	高値になると胆汁の排泄に障害がある疑いがあります。
	総ビリルビン	g/dl	栄養状態の目安となり、肝臓、腎臓などの状態を把握できます。
	総ビリルビン	mg/dl	黄疸の指標です。肝機能異常や胆道系疾患、一部の貧血で高値になります。
	LDH	U/L	糖分をエネルギーに転換する時に働く酵素で、肝臓や腎臓の損傷を調べます。
肝炎検査	HBs抗原		現在B型肝炎ウイルスに感染しているかどうかの指標となります。
	HCV抗体		陽性の場合、C型肝炎ウイルス感染の可能性があり精密検査が必要です。
膵機能検査	血清アミラーゼ	U/L	膵炎や膵腫瘍、糖尿病などの膵臓疾患や唾液腺疾患で異常値を呈します。
腎機能検査	尿素窒素	mg/dl	腎臓の血液濾過機能を反映します。腎機能低下の指標になります。
	クレアチニン		
	eGFR	ml/分/1.73m <sup>2</sup>	血液中のクレアチニン値、年齢、性別から推算したもので、腎機能の指標になります。
尿酸検査	尿酸	mg/dl	高値になると痛風・腎結石・心臓病などを起こしやすくなります。
脂質代謝検査	総コレステロール	mg/dl	血液に含まれるコレステロール量のこと動脈硬化の指標になります。
	中性脂肪	mg/dl	皮下脂肪の主成分です。肥満や生活習慣病の原因となります。
	HDLコレステロール	mg/dl	善玉コレステロールで、血中脂肪を運び出し動脈硬化(血管の老化)を防ぎます。
	LDLコレステロール	mg/dl	悪玉コレステロールで、血管壁に蓄積して動脈硬化を進行させます。
糖代謝検査	血糖	mg/dl	
	HbA1c	%	空腹時の血糖値と過去2ヶ月の血糖値を反映するHbA1cを組み合わせることで、糖尿病の診断や長期の血糖コントロールの評価ができます。

検査部門	検査項目	単位	検査でわかること
血液一般検査	白血球数	/μl	感染などで身体に炎症があるときや白血病などで高値になります。
	赤血球数	万/μl	低値では貧血、高値では多血症が疑われます。
	血色素	g/dl	赤血球中の酸素を運ぶ色素の量や体積比を表し、貧血の診断に用います。
	ヘマトクリット	%	
	MCV	f l	
	MCH	pg	MCVは赤血球の体積・MCHは赤血球に含まれる血色素量・MCHCは赤血球体積に対する血色素量の割合を示します。
	MCHC	g/dl	
	血小板数	万/μl	血液を凝固させる働きを持ち、少ないと出血しやすくなります。
血液像	%	白血球の種類で、炎症やアレルギー、感染、免疫機能で比率が変化します。	
腫瘍マーカー検査	CEA	ng/ml	<p>血液中に含まれるタンパク質や酵素、ホルモンを測定することで体内に腫瘍ができていないかを調べます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CEA（大腸、肺）</li> <li>・AFP（肝臓）</li> <li>・CA19-9（膵臓、胆道）</li> <li>・PSA（前立腺）</li> <li>・CA-125（卵巣、子宮）</li> <li>・SCC、NSE（肺）</li> </ul>
	AFP	ng/ml	
	CA19-9	U/ml	
	PSA	ng/ml	
	CA-125	U/ml	
	SCC	U/ml	
NSE	ng/ml		
心臓機能検査	心電図		心筋の動きを電氣的に記録して不整脈や心筋の虚血、肥大を診断します。
超音波検査	腹部超音波検査		肝臓や胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓、膀胱等の形態を確認し、腫瘍等を調べます。
呼吸器検査	胸部レントゲン検査		肺結核や肺腫瘍など肺病変の診断をします。
	肺機能検査		肺活量を測定し、肺気腫、間質性肺炎、気管支喘息などを診断します。
上部消化管検査	胃部レントゲン検査		バリウムを飲み、消化管壁をX線で造影し、ホリフや潰瘍・癌などを診断します。
	胃内視鏡検査（胃カメラ）		ファイバーで消化管壁を観察します。病変の組織採取を行うことがあります。

### 判定基準<R8年4月から変更になりました。>

異常なし	A	A
わずかな異常	B	B
要経過観察	C	C
要治療	E	→ D1
要精密検査	D	→ D2
治療中	F	→ E

健診結果を活かし、運動や食事に気を付けて

よりよい生活習慣でお過ごし下さい。

